

公開懇談会「感染症対策とフィールドワーク教育」 開催報告

愛知県立大学外国語学部国際関係学科教授
亀井伸孝

2020年6月16日(火)19:30-21:00に、公開懇談会「感染症対策とフィールドワーク教育」が開催された(主催:愛知県立大学大学院国際文化研究科「多様性のフィールド学研究グループ」、共催:多文化共生研究所)。対面授業を停止している時期の開催であることに鑑み、キャンパス内に会場は設けず、Zoom会議室にて開催した。

2020年初頭からの新型コロナウイルス感染症の流行により、大学での教育実践は大きな影響を受けた。座学を中心とした通常授業については、遠隔方式で実施する方法もあるが、フィールドワーク実習などの取り組みに関しては、このような状況にあって、どのような工夫とともに進めることができるだろうか。このような問題意識のもと、実習計画の立案、調査の実施方法、調査協力者との調整、特有の調査倫理と安全確保、学生への指導ポイントなど、具体的な実践の手法について、多面的に意見交換する目的で懇談会を開催した。プログラムは、表1の通りである。本学構成員を対象とした懇談会で、参加者は、教員や大学院生を中心とする約20名であった。

表1: 懇談会プログラム(筆者作成)

趣旨説明: 亀井伸孝(外国語学部国際関係学科)
フィールドワーク実習や計画・対応などの事例報告(質疑入れて各10分以内) ・亀井伸孝 ・松宮朝(教育福祉学部社会福祉学科) ・宮谷敦美(外国語学部国際関係学科) ・井戸聡(日本文化学部歴史文化学科)
自由討論(45分)(司会: 亀井伸孝)

教育において、例年と同じようなことが同じようにはできないなか、「かつてと同じことはすぐにはできないかもしれないが、それに近いことを安全に留意しつつ実行し、教員と学生における調査と教育の達成を目指したい」という趣旨説明での呼びかけのもとに開会された。

次いで、フィールドワークを教育の重要な要素として取り入れている三つの学部の教員4名が、それぞれのこれまでの授業実践と、今年度直面している状況、その代替策の提案などをまとめ、手短かに報告した。

これらを踏まえて、参加者間の自由討論を行った。事前予約の際に参加者が記入した質問や要望をトピックとして紹介しつつ、具体的な教育実践上のニーズに基づいた質疑応答が行われた。学部長などの役職を伴った参加者も含まれており、感染状況下における大学執行部

のフィールドワーク教育に対する姿勢についての質疑や情報交換も行うことができた。

なお、この懇談会における意見交換の成果を踏まえ、参加者の一部がその後に大学執行部に対して要望を提出するなどの具体的な動きが生じた。その結果、教員が引率する学外授業としてのフィールドワーク、学生が単独で卒業論文や修士論文の研究の目的で行うフィールドワーク、さらには、3年次以下の学部生が授業課題として行うフィールドワークなどの必要性が認められ、事前に計画を申請することによって、全学の新型コロナウイルス感染症対策室により実施が許可されるというプロセスが制度化されるに至った。これは、感染症流行下における本研究所の懇談会が生んだ、教育上の重要な成果であると位置付けることができるであろう。